

まえがき

本調査研究報告書は、アジア経済研究所が 2011～2012 年度に実施している「ベトナムの農村発展—高度経済成長下の農村経済の変容—」研究会の成果の一部であり、一年目の中間報告書となる。本研究会の最終成果は、2013 年度中に研究書として出版される予定である。

ドイモイ以降のベトナム農村は、新たな農業技術の導入や、インフラ整備、市場経済化、工業化、貿易自由化という外的変化に晒され、大きく変化してきた。この間、コメ、コーヒー、コショウ、カシューナッツといった農産物の輸出は世界市場で 1、2 を争うシェアを占めるまで成長し、外貨獲得に貢献してきた。しかしその一方で、工業化が進み高度経済成長が続く中で農業の役割は確実に縮小しており、ドイモイ開始直後の 1988 年には 46.3%あった GDP に占める農業部門の割合は、2010 年には 20.6%にまで縮小している。そのような状況を踏まえた上で、ドイモイ以降、特に 2000 年以降の高度経済成長期にベトナムの農村経済がどのような変化を経験しどのような特徴を持つに至ったか、そしてそのような今日のベトナム農村経済の特徴が国家の経済発展にどのような影響をもたらしているのか、といった問題意識から本研究会が企画された。

研究会一年目の今年度の報告書は、主に農村における労働力の変化に注目した内容となっている。機械化や大規模化による農業の生産性の向上や、農家の兼業化、出稼ぎ、農村内における非農業労働などの量的・質的な実態とその変化を捉えることに焦点を当てた。

研究会では、開発経済学、農業経済学、ベトナム地域研究という多角的なアプローチから、さまざまな議論を行ってきた。開発経済学や農業経済学からのアプローチとしては、経済成長と農業・農村発展の理論を整理し、先行する近隣アジア諸国とのマクロ的な比較を行った。また、農村における経済主体のミクロ的行動に関して、理論や現地資料に基づき仮説の検討を行った。一方、地域研究からのアプローチとしては、政策や先行研究の議論の精査、ベトナム人識者との意見交換、現地調査による実態把握を通じて、ベトナム農村の社会構造や歴史的経緯に踏み込んだ考察を行った。そして、それぞれのアプローチからの検討結果を相互に検討し、フィードバックを行ってきた。来年度の最終報告書の出版に向けて、更なる議論を重ねていく予定である。

2012 年 3 月

編者

目次

第1章 ベトナム農村の労働と雇用

—統計にみる労働市場の構造変化—.....1

坂田正三

第2章 現代ベトナム農業における大規模経営化と雇用吸収

—省別データを用いた考察—21

高橋 壘

第3章 ベトナム農村における出稼ぎ行動とその要因分析

—紅河デルタ・タイビン省の事例—.....52

辻一成

第4章 メコンデルタにおける稲作農業の機械化.....68

塚田和也

第5章 ベトナムの工業区周辺農村における就業構造の変化

—カントー市工業区周辺の農村の現状から—.....85

藤倉哲郎

第6章 ベトナムの工業区整備事業と農村 - 北中部を中心に -105

新美達也

執筆者一覧

(執筆順、所属は 2012 年 3 月現在)

坂田正三	アジア経済研究所 地域研究センター主任調査研究員 (第 1 章)
高橋 壘	東海大学 政治経済学部専任講師 (第 2 章)
辻一成	佐賀大学 農学部准教授 (第 3 章)
塚田和成	アジア経済研究所 開発研究センター研究員 (第 4 章)
藤倉哲郎	東京大学大学院 総合文化研究科 (第 5 章)
新美達也	名古屋大学 産学官連携推進本部調査員 (第 6 章)